

問題 4

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さかきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。翁言ふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。子となりたまふべき人なめり。」とて、手にうち入れて家へ持ちて来ぬ。妻の女に預けて養はす。うつくしきこと限りなし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけて後に、竹取るに、節を隔てて、よごとに金がある竹を見つくること重なりぬ。かくて翁やうやう豊かになりゆく。

この児、養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。

----- 問題文はここまでです -----

328 字。「竹取物語」より引用。作者不詳。